



2026年に期待すること

中部電力株式会社 専務執行役員
技術開発本部長 **野田 英智**

愛知電機技報No.47 発刊に寄せて、日頃より愛知電機株式会社とともに技術・研究活動に関わる一人として、心よりお祝いを申し上げます。

長年にわたり、同社は電力・エネルギー関連機器をはじめとする高度なものづくりを通じて、社会インフラの安定と産業発展に大きく貢献してこられました。

また、近年では、グリーントランスフォーメーション(GX)やデジタルトランスフォーメーション(DX)⇨インテリジェント化、レジリエンス強化など、産業を取り巻く環境はかつてないスピードで変化していますが、このような中で、同社の現場に根差した確かな技術力と、現状に満足することなく改善・革新を続ける姿勢は、持続可能な社会を支えるうえでますます重要性を増しています。

本技報には、同社の皆様が日々の業務・研究開発を通じて培った知見や、試行錯誤のプロセス、そしてそれを体現した「技術」が濃縮されていると思います。

さて、2026年も早や3か月が経っておりますが、ここで一度、昨年(2025年)を振り返ってみると、国内では、猛暑というよりは酷暑ともいべき長い夏が続き、「四季」ではなく「二季」なんて言葉も使われるようになったのが印象的でした。

一方、あるシステムベンダーさんからは、「IT業界では“AI祭り”とでもいえるほど、AIの進歩とその活用が進んだ一年だった。」なんて話を聞きました。

このおかげもあってか、データセンターの建設ラッシュが話題になり、データセンターが増えることにより今後電力需要が大きく伸びるという想定を含む「第7次エネルギー基本計画」が閣議決定されました。

さらに、2025年に日本で行われた大きなイベントとして最も注目されたのは「大阪・関西万博(Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan)」でした。2025年4月13日から10月13日まで大阪で開催され、約160の国と地域が参加する世界規模の博覧会でした。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、最新技術や文化の展示が、酷暑期間も含め長期間に亘って行われました。

暑い中、私も二度訪れましたが、両日とも10万人以上の人々が来場しており、予約も中々取れず、入れたパビリオンも数限られたのは少し残念でしたが、新しい技術や将来の生活スタイルの提案を見るにあたり、相応の刺激を受けました。特に主たるテーマの一つだったヘルスケアの分野では、「動く心臓(iPS細胞由来の心筋)」を見るに医療技術はどんどん発展すると改めて思いましたし、大阪ヘルスケアパビリオンでの“未来の自分の姿をシミュレーションする近未来体験”はパーソナルヘルスレコード(PHR)とAIを活用していて、近未来というより、既に直近未来だと感じました。一方、正直、「空飛ぶクルマ」の展示は形の違うヘリコプターに見え、

産業分野での進歩を感じるには力強さが無かった気がしましたし、日本のどんどん進化している産業技術の実物やモックアップの展示がもっとあった方が良かったのでは、とも思いました。(多くのパビリオンで、イメージ映像を多用しており、実物やモックアップが少なく、迫力に欠けた感は否めなかったのも正直な感想です。)

さて、このような2025年の主だった出来事を顧みて、妄想も含めこの2026年に期待する技術の進展ですが、幾つかあると思います。

2026年は、生成AIが色々な企業などで本格運用フェーズに入り、専門部署だけでなく色々な部署で、日常業務の中に実装し、使う段階に入ってきます。働き方改革という言葉が数年前からいわれてきましたが、生成AIの活用により業務の分野で大きく働き方が変わる年だろうと思っています。例えば、分かり易い所言えば、「テキスト」「(動画を含む)画像」「音声」の認識や生成をAIで行い業務活用することは既に始まっています。

一方で、特にメーカーさんの中では、AIが機械やロボットの動作を制御することによる製造業の自動化などが本格的に実装されていくものと思っています。また、人間の目では見逃しやすい製品・機器の異常などをAIが検知し、システムの安全性維持に貢献していくようなことも進んでいくのではと期待しています。

暑い夏が引き続き発生しエアコンは高稼働する可能性は高い一方、冬の暖房分野でも電化が進み、産業分野を中心にGXに向けて電化の進展もあり、更に生成AI活用＝高稼働なデータセンターの影響などと考えると、色々な場面で電力需要の増加が見込まれるようになってきます。そうすると将来も見越し電力設備増強が進み出します。GX with DXと言われますが、このような中で、配電設備や変電設備などの電力設備もDX化やインテリジェンス化が進むはずで、それに纏わる技術開発も進んでいくと思われます。

結果期待することは、電力需要を支えて下さるお客さまは引き続き安心して電気が使え、現場で働く人にとっては更に安全で効率的に仕事ができる世界が広がっていくことです。そして、温暖化も抑制できるなら素晴らしいと思います。

技術者や研究者にとって、新しいことに挑戦するチャンスが増えて行くということですし、知恵の出し所、技術力を見せつける良い機会になっていくと思います。皆さん、ワクワクするではありませんか。2026年に期待したいと思います。